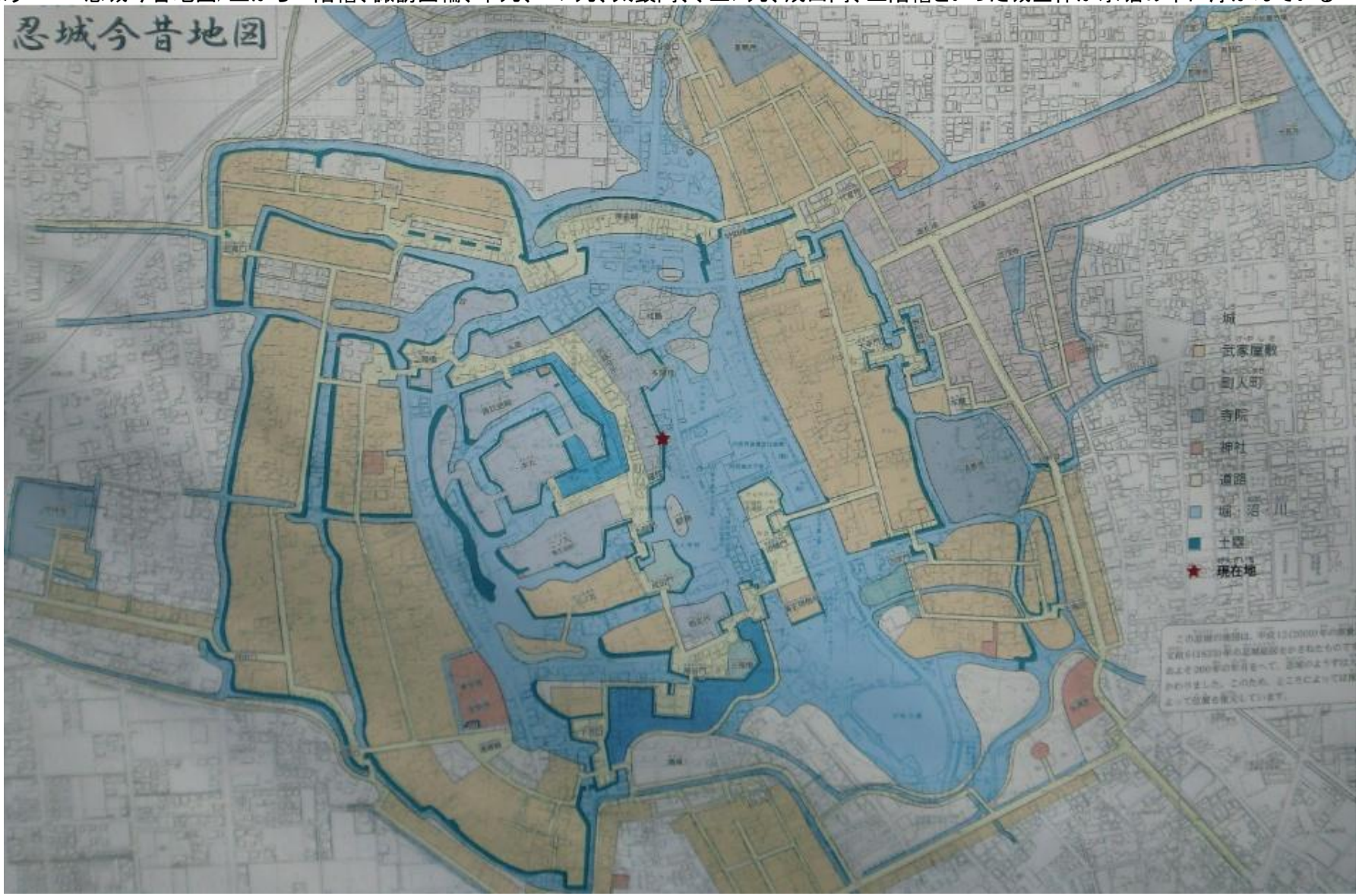
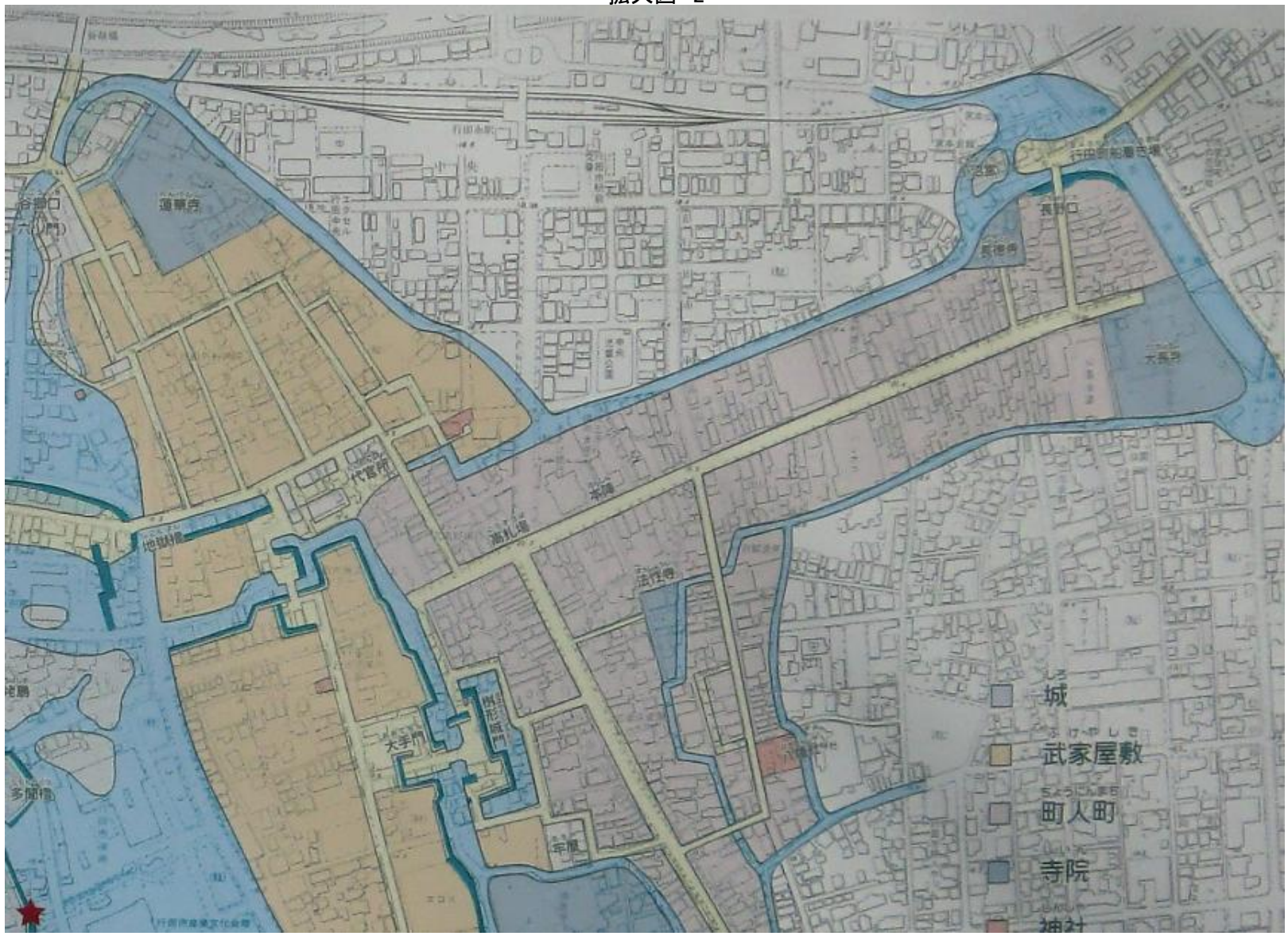
忍城跡周辺を巡る（行田市）

おしじょう　　忍城今昔地図/上から二階櫓、諏訪曲輪、本丸、二ノ丸、太鼓門、、三ノ丸、成田門、三階櫓といった城全体が水堀の中に浮かんでいる



拡大図　1

拡大図　2



拡大図 3

拡大図 4

神社
道路
堀・沼・川
土塁
現在地
この忍城の地図は、平成12(2000)年の
文政6(1823)年の忍城絵図をかさねたもので
およそ200年の年月をへて、忍城のようすは
かわりました。このため、ところによっては
よって位置を復元しています。

諏訪曲輪

二階櫓　　本丸　　太鼓門

二階櫓

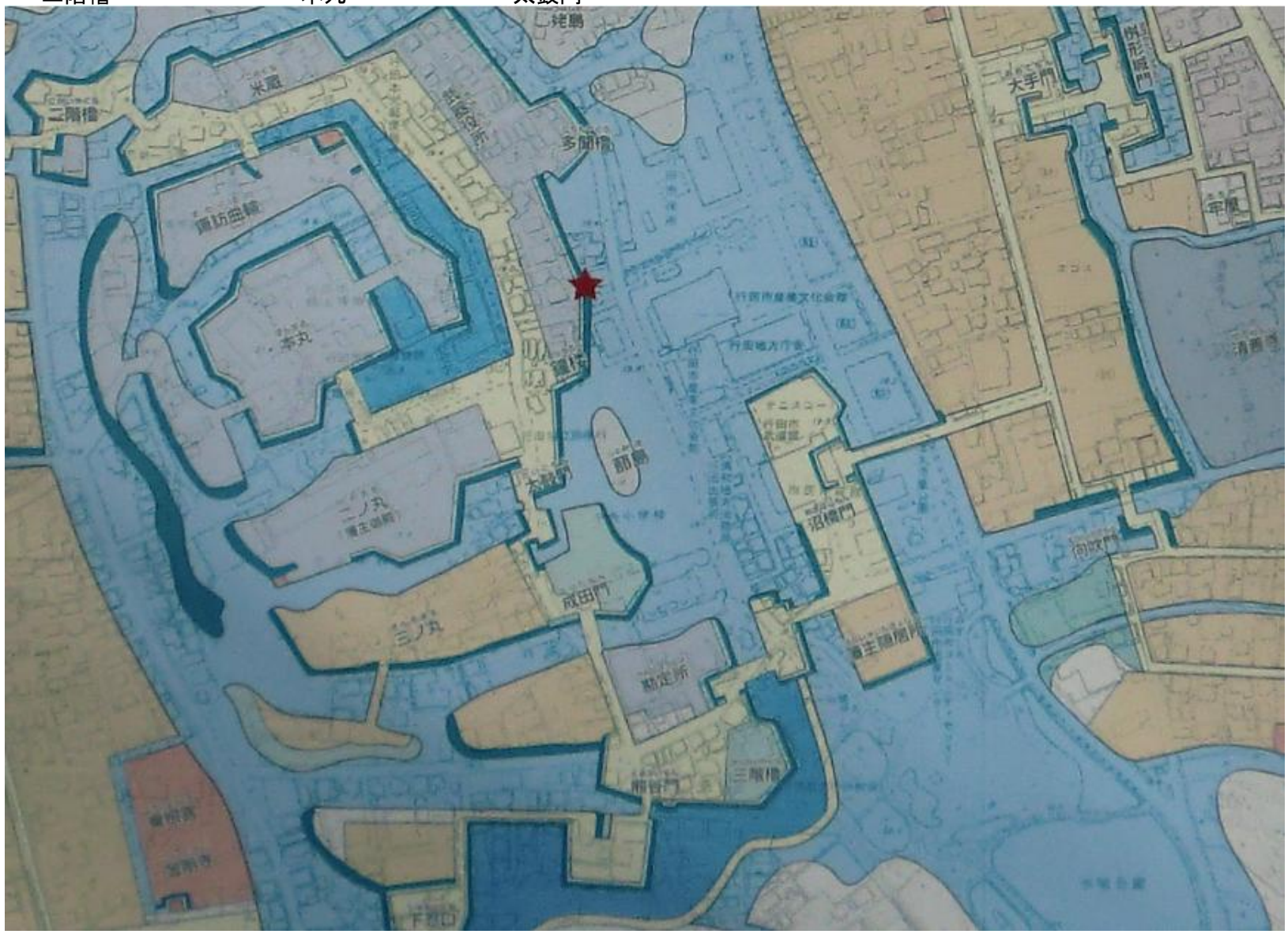
諏訪曲輪

本丸

太鼓門

成田門

三階櫓



成田門　　三階櫓

行田市郷土博物館（忍城本丸跡）

東門　御三階櫓

<u>忍城址案内図</u>

本丸土塁

御三階櫓

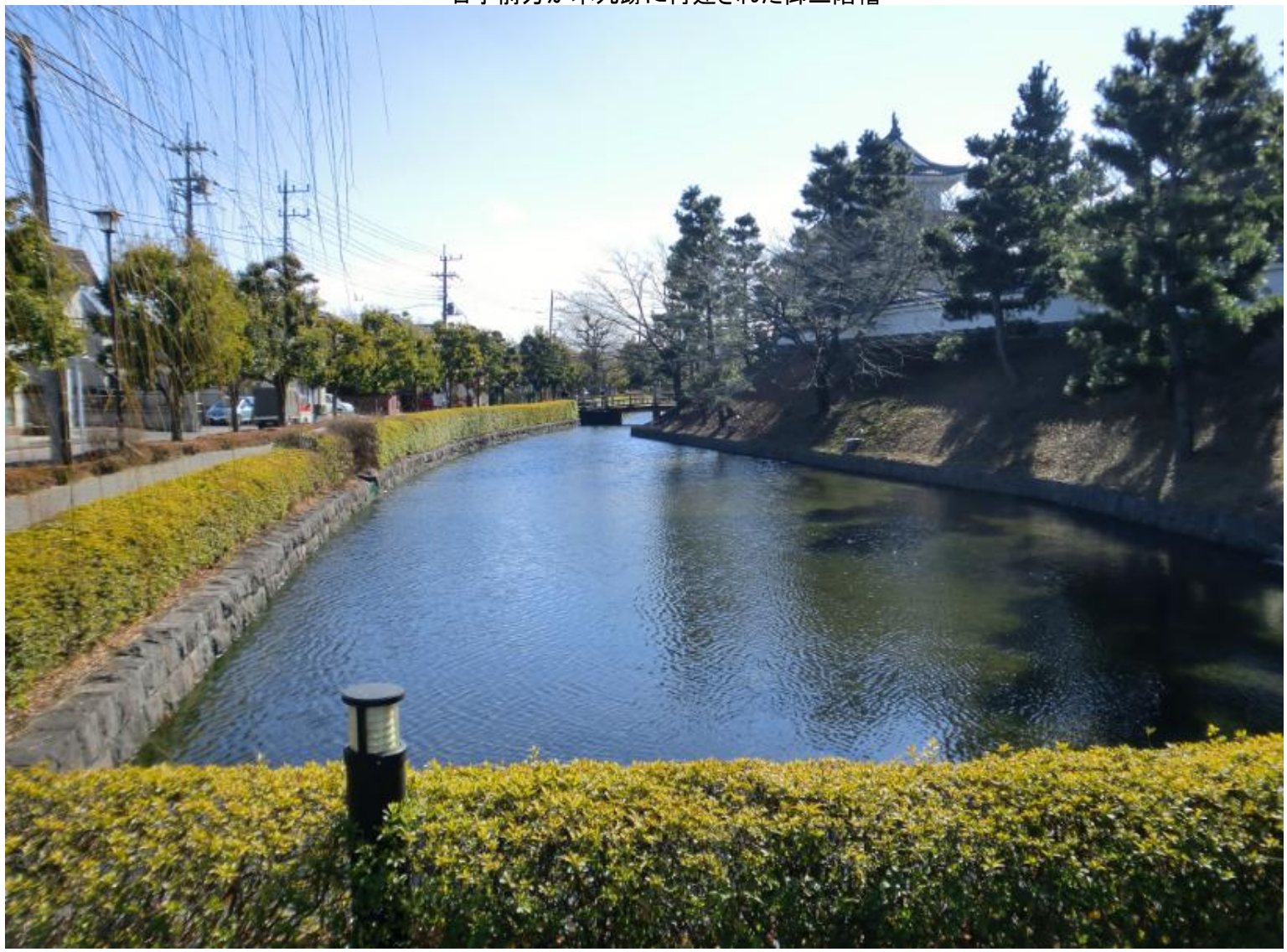
東門

鐘楼

本丸土塁

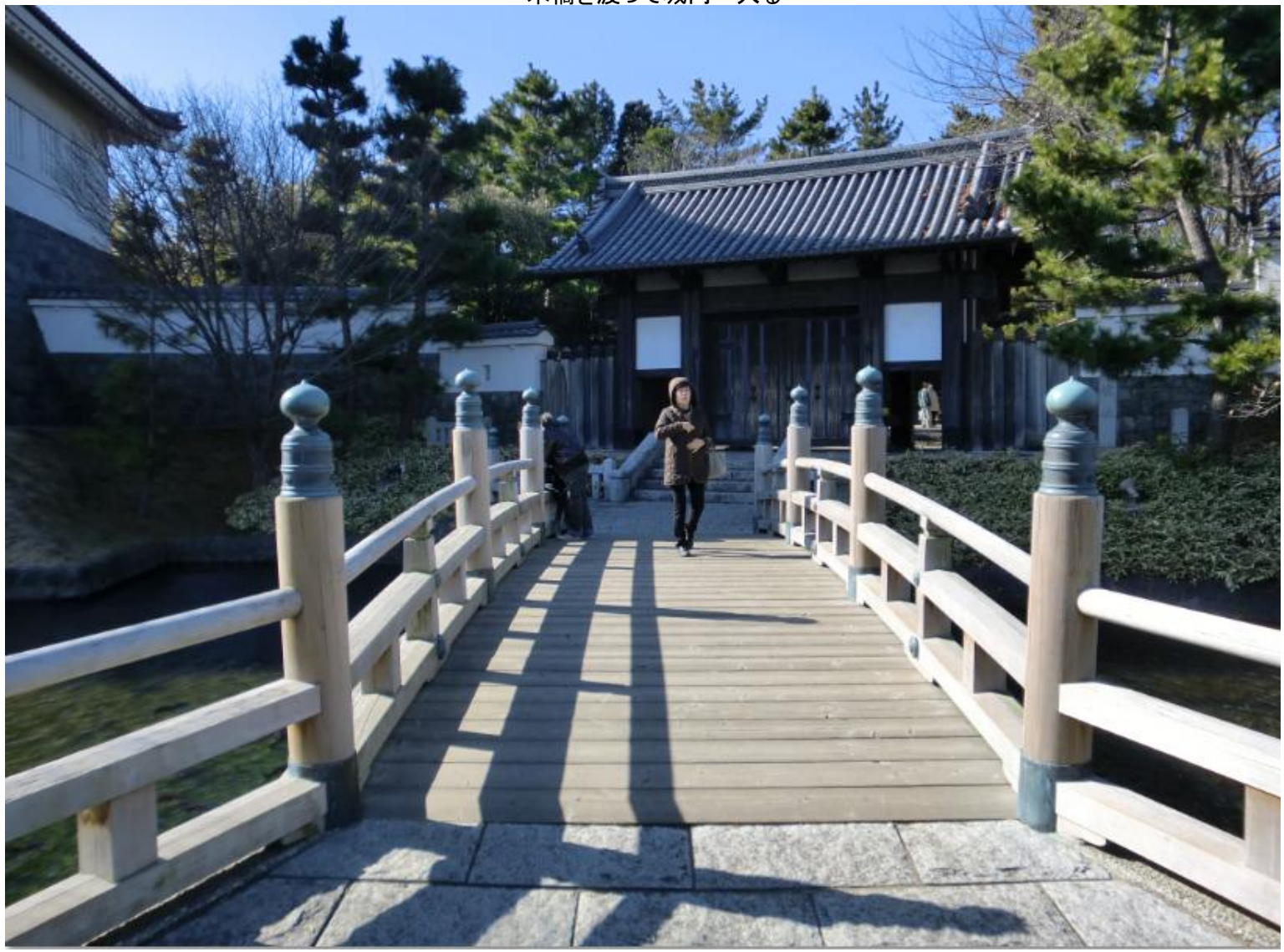
鐘楼

右手前方が本丸跡に再建された御三階櫓



御三階櫓

木橋を渡って城内へ入る



東門

忍城の由来
忍城は文明十年(一四七八)頃 成田顕泰に
より築城された「守り易く攻めにくい」難攻
不落の名城であったと伝えられている
天正十八年(一五九〇)豊臣秀吉の関東平定の
中で戦われた石田三成による忍城水攻めにも
耐えこの城は水に浮くのかと 恐れられ
「忍の浮城」とも称されたという
寛永十六年(一六三九)時の老中 阿部忠秋が
入城し忍城大改築に着手 孫の正武の代に
いたり忍城御三階櫓の建設城門土塀の修築
などが完成し面目を一新したという
文政六年(一八二三)伊勢の桑名から松平忠堯が
移封し忠誠のとき明治維新を迎えた
市では維新後とりこわされていた城郭の面影
を再建し永く後世に伝えることになった
平成三年三月
行田市

忍城櫓の石垣
城内にあった櫓に使用
された石垣。
元禄十五年(一七〇二)に
三階櫓一棟、二階櫓二棟が
建てられたが、明治六年
(一八七三)の廃城により
解体された。

鐘楼

史跡 忍城の碑

場外の道路から見る

駐車場へのアプローチを見る

右手は土塁跡

奥は変電所

振り返って見る

この駐車場には「忍城御本丸跡」の石碑がある

こんな石碑もあった

忍城櫓の石垣
城内にあった櫓に使用
された石垣。
元禄十五年(一七〇二)に
三階櫓一棟、二階櫓二棟が
建てられたが、明治六年
(一八七三)の廃城により
解体された。

駐車場の奥へと進む大きな土塁跡が残っている

本丸土塁とある

振り返って見る

更に進んでみる

折れがある

元の場所に戻ろう

土塁跡まで戻り、右手に入る

正面は伝進修館表門

伝進修館表門
この門は、行田市城西の旧芳川家表門を移築・復元したもので、かつての藩校「進修館」の表門であったと伝えられている門です。
一間一戸、高麗門、切妻造、桟瓦葺で、当初は赤彩された赤門であった可能性も指摘されています。また、解体時に発見された冠木柄表面の墨書銘から、天保三年（一八三二）に御奉行後藤五八、大工町世話方大工宋兵衛等によって建立されたことが判明しています。
戦災によって一度移築されていることなどから、藩校「進修館」の門であるのかは確定していませんが、現存する行田市唯一の武家屋敷の表門として貴重な歴史的建造物であると言えます。
平成十八年三月
行田市教育委員会

門をくぐって見る

右側に先ほどの土塁跡が見える

上に登って見る

振り返って見る

右手は変電所の裏

それでは中を御三階櫓方向へ進む

正面も土塁跡

御三階櫓

諏訪郭跡（諏訪神社、東照宮）

前方の木々の中に諏訪神社、東照宮があり、この辺りが諏訪郭跡である

諏訪神社入口

入口右側（写真の正面）の高まりは土塁の跡である

土墨跡をアップで見る/頂部にある石碑には「村社　諏訪社」と記されている

境内に進んでみよう

土塁跡側面を境内側から見る

ここが諏訪神社

手前に「お百度石」がある

二の丸稲荷社

二の丸稲荷社
御祭神　宇賀御霊神
忍城二の丸に、例祭三月初午の日
祀ってあった。
明治六年諏訪神社境内に遷座。
宇賀御霊神は稲荷大神とも言い、
食物の神であり、万物生成を
司る神である。一説には、
永禄年間（西暦一五六〇年頃）
忍城主の成田長泰が見返曲輪
（後の二の丸曲輪）内に、
若い時に殺生した狐の親子を
祀ったものとも言われている。
奉納創業百周年記念
平成十八年十二月吉日
大野建設株式会社

ここは多度社・一目蓮社

多度社・一目蓮社
御祭神 天津彦根神
天目一固神
現在の場所より西北に
二百メートル程の所に文政六年
(西暦一八二三年)、松平忠堯は
伊勢国多度山より城内に勧請。
当時の境内は参百坪程あり、
例祭(五月五日)には神楽殿で
「能」が演じられたという。
忍藩は忍宝正の名があり、
宝正流の能が盛んだった。
明治六年、現在地に遷座。
折雨や海上の風難、水火の災い
に霊験あるとされる。
奉納創業百周年記念
平成十八年十二月吉日
大野建設株式会社

ここが東照宮

諏訪神社

御祭神　建御名方命・八坂刀売命
例　祭　九月二十七日

当社の鎮座したのは、八十二代後鳥羽天皇の建久（一一九〇年頃）の昔、忍三郎・忍五郎家時等の一族が、館・塁等を築き居住した頃、と言い伝えられている。又「持田村誌」には、成田親泰が延徳三年（一四九一）に忍城を構築し、この時、持田村鎮守諏訪社を城鎮守としたのが、当社であると伝えている。その後、成田氏代代の崇敬があり、寛永十六年（一六三九）、城主となった阿部忠秋は城郭を修築し、併せて正保二年（一六四五）、当社の本殿を造営、寛文十二年（一六七二）拝殿を新たに建立した。現在の社殿は、昭和三十六年の造営である。

文政六年（一八二三）、松平忠堯は伊勢桑名から移封するに当たり、城内宇下荒井の地へ東照宮を、更に城内へ多度社と一目蓮社を勧請した。これらは明治六年、城郭取り壊しの際、当社境内に移される。又、城内各所にあった小祠、科斗社・八幡社・久伊豆社・荒神社・春道稲荷大明神・神明社・二の丸稲荷大神・天神社両棟稲荷大明神の九社も、同時に当社へ配祀された。

東照宮

御祭神　徳川家康命・松平忠明命
　　八幡大神
例　祭　五月十七日

当社は、家康公の娘、亀姫が父の肖像を頂き、後に子の松平忠明公に伝え、忠明公が寛永二年（一六二五）、大和国郡山城内に社殿を造営して、肖像を安置したことに始まる。以来、藩主・藩士崇敬の社となった。その後、移封の都度遷座され、慶応四年（一八六八）、鳥羽・伏見の戦の折、大坂蔵屋敷内の東照宮を、当社に合祀した。

社領は、郡山当時より百石を受け継ぎ、明治維新まで続く。その地は、埼玉古墳群の辺りであったと伝えられている。

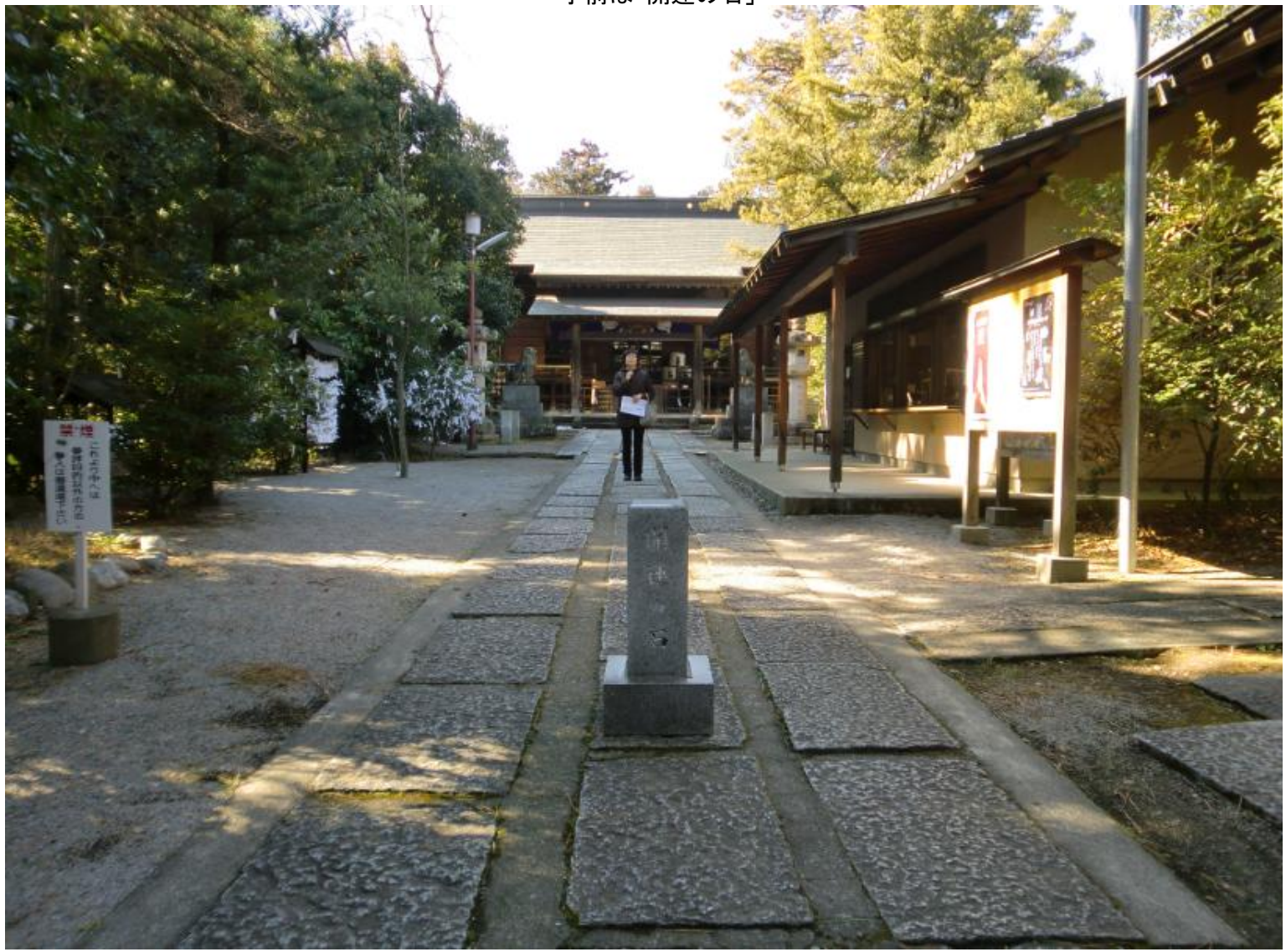
明治四年（一八七一）、藩主東京移住のために祭祀断絶の危機を迎えるが、旧藩士ら相計り、同七年に下荒井の地より、本丸の一部である諏訪郭内の、諏訪神社境内一隅に本殿を移し、同三十三年に藩祖松平忠明公を配祀した。

現在の拝殿は、昭和五年の造営である。

社務所

忍城鳥瞰図
N

手前は「開運の石」



東照宮拝殿

東照宮境内左手（北側）へ行くと「諏訪曲輪御門跡」の石碑（左手）がある

「忍城十五門の内　諏訪曲輪御門跡」とある

この周囲には水堀が廻っていたらしいが現在は埋められて駐車場として使われているようだ

水堀の面影もない

そこから北辺を西側に廻って見ると神社敷地の周囲はこんな風景であった

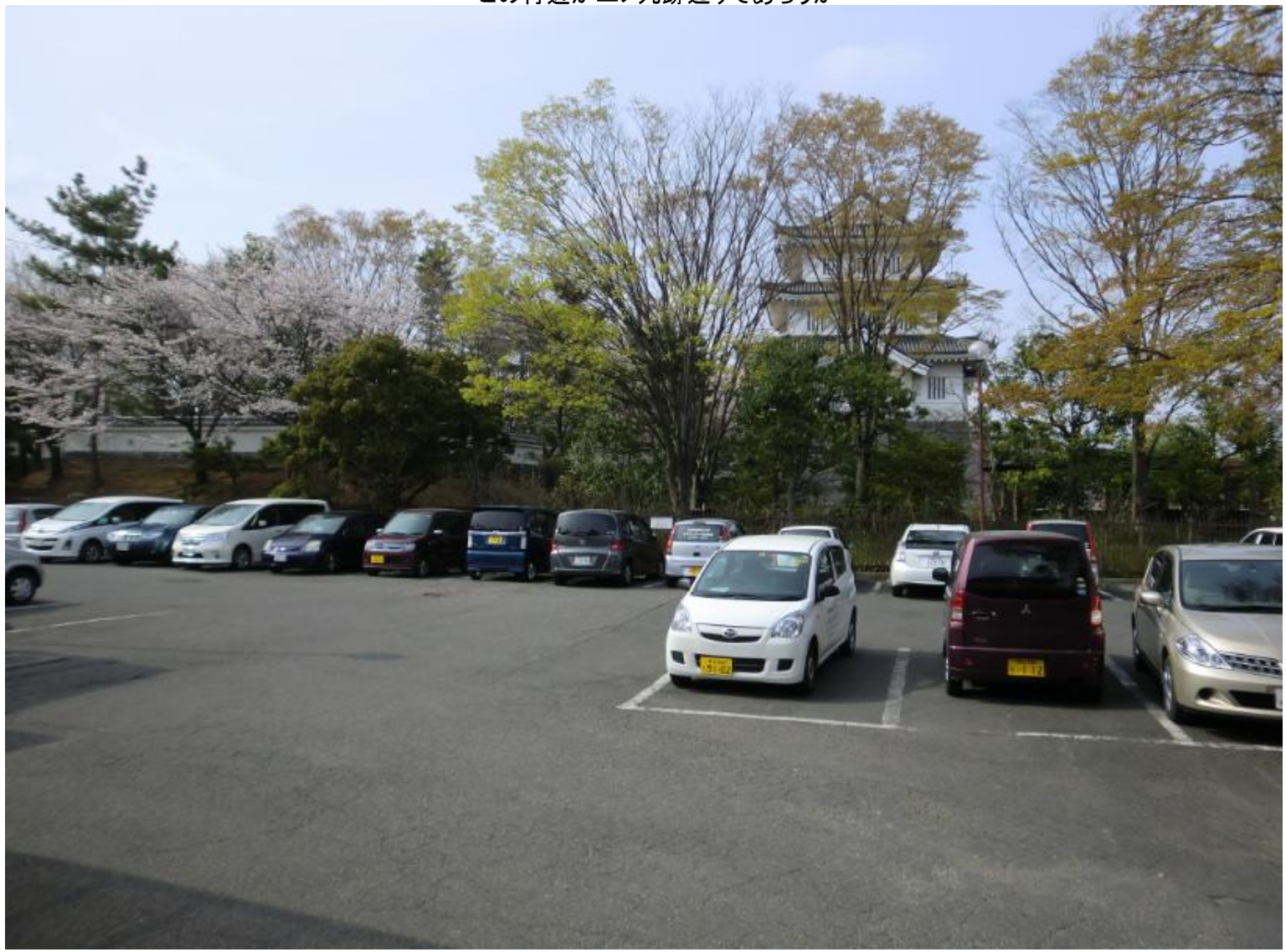
敷地西側に廻りこんでいる

そこから更に西方を見ると正面の木の下に石碑がある

「二重櫓跡」とある

さて、次は「御三重櫓」の東側を見てみよう

この付近が二ノ丸跡辺りであろうか



前方に石碑がある

「太鼓門跡」とある

ここは行田市立中央小学校

植え込みに石碑が立っている

「成田御門跡」とある

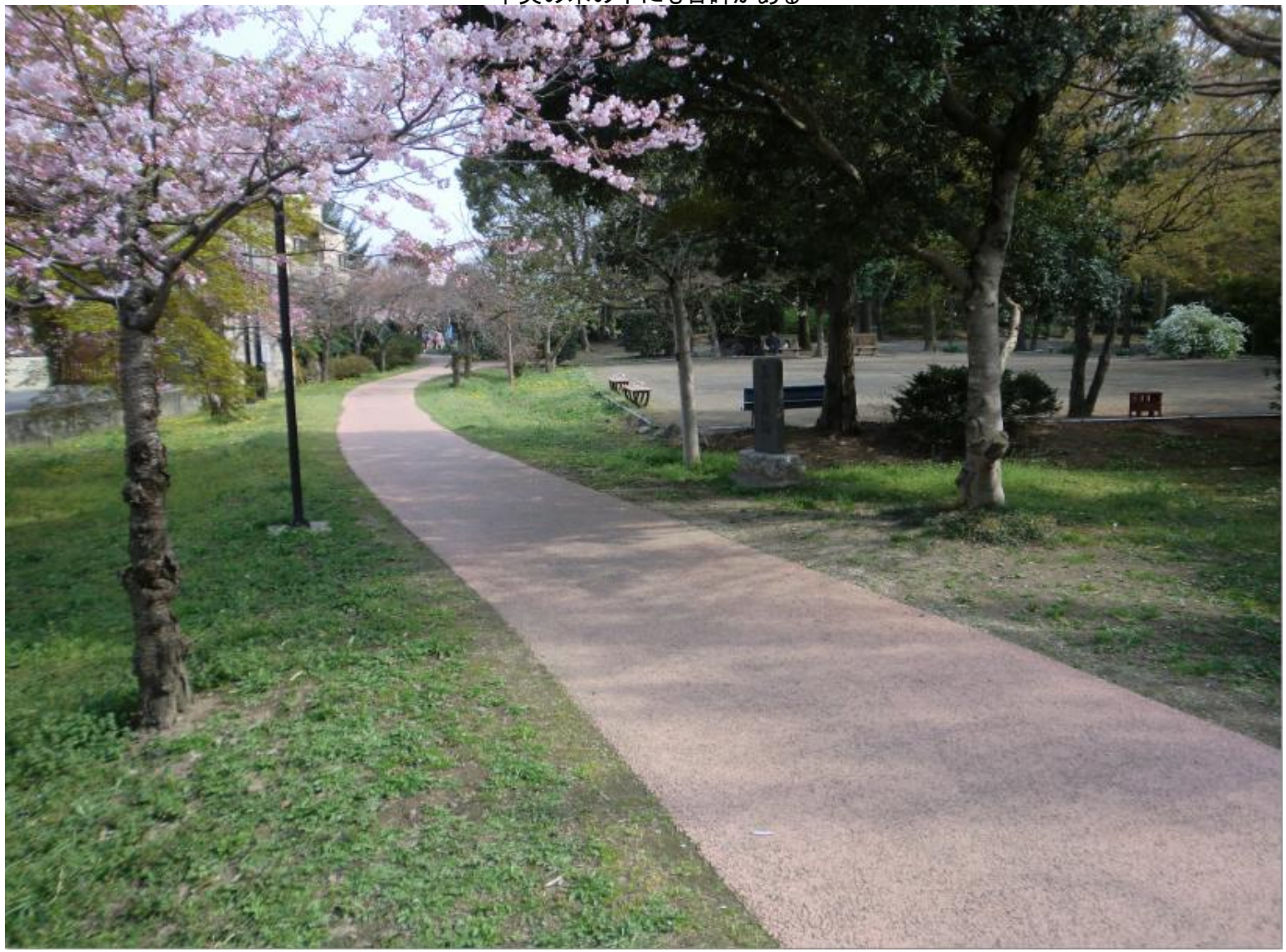
また、近くのフェンスの中にも石碑もあった

行田市の教育委員会はこのような方法で多くの遺跡を保存しているようだ

さて、ここにも石碑がある

忠堯侯
忠國侯
隱居所跡
行田市教育委員会

中央の木の下にも石碑がある



反対側から見る

ここが「三重櫓跡」

ここは水城公園/かっての外堀の跡といわれている

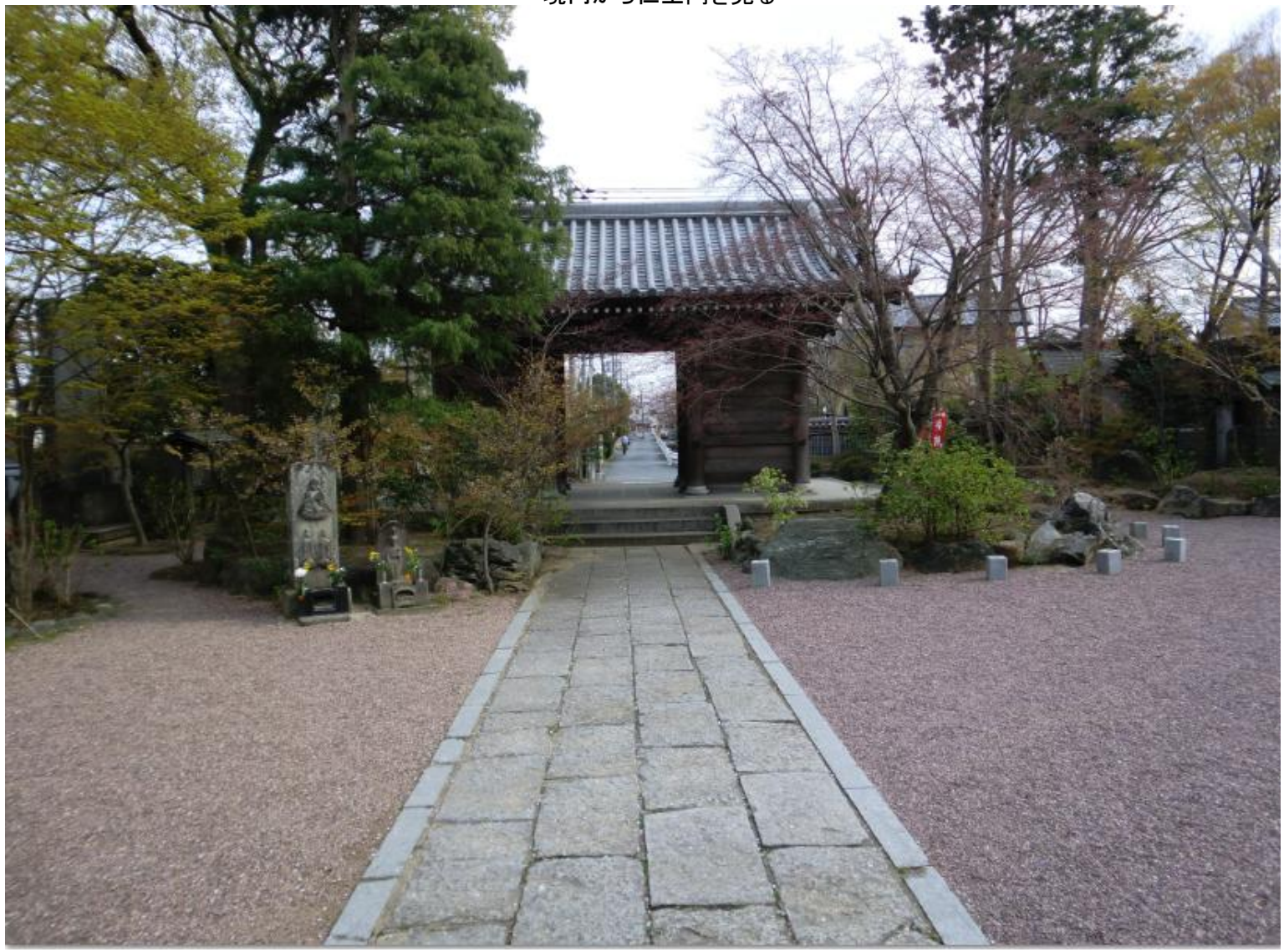
当時の浮島を彷彿とさせる風景である

さて、ここは忍氏館跡とされる遍照院

立派な仁王門がある

妻入りの本堂

境内から仁王門を見る



さまざまな石造物があった

遠景から/前方の車は調査隊のクルーザー

さて、ここのNTT行田支店のコーナーにも石碑が立つ

「行田兵衛尉館跡」とある/いわゆる行田氏館跡

“ぎょうだ歴史・文化の旅” コース
埼玉県指定旧跡
忍城跡
諏訪神社
二ノ丸稲荷
市役所
忍の時鐘櫓の碑
行田市産業文化会館
アートギャラリー
東照宮
忍城址
行田市郷土博物館
伝道修館門
忍城本丸の土塁
蒸気機関車 C57
水城公園
田舎教師の碑
行田市指定文化財
(天神社)けやき群
高源寺
佐間口古戦場跡
国登録有形文化財
旧荒井八郎商店
国指定史跡
埼玉古墳群
丸墓山古墳
稲荷山古墳
将軍山古墳展示館
さきたま古墳公園
「行田蓮」
旧日光裏街道コース
川端酒造
立場跡
忍三郎館跡
(南小学校)
割役庄屋表門
妙音寺
三間茶屋
行田市指定文化財
旧藩主松平家の墓
天祥寺
蓮照院
行田市埋蔵
文化財センター
はにわの館
県立さきたま
史跡の博物館
文化ゾーンコース
水戸稲荷
区画整理記念碑
諏訪神社
埼玉県指定文化財
大日種子石碑
行田市指定史跡
大日塚古墳
教育文化センター
みらい
富士 T-1 ジェット機
埼玉県指定史跡
一 里 塚
旧日光裏街道コース
文化ゾーンコース
指定・登録文化財
文化財／神社・仏閣／博物館等
公園
お手洗い
市内循環バス停留所
路線バス停留所

参考ホームページ

http://www.tesshow.jp/saitama/gyoda/shrine_honmaru_suwa.html

http://blog.goo.ne.jp/k-ono_002/e/d27870de0552f9a84e7065625ebb6c25

http://www.yumemusubi.com/mori/jinja/saitama/oshi_toshogu.htm

http://www10.ocn.ne.jp/~kosuke/gyoda/gyouda.htm

http://www5d.biglobe.ne.jp/~hatabo/meijyou/12_Saitama/oshi/index.html